

役職等	団体等	役職	氏名
委員長	瀬戸市	市長	川本 雅之
副委員長	瀬戸市	副市長	大森 雅之
委員	瀬戸市歴史文化基本構想策定委員会	元委員長	青山 一郎
委員	瀬戸市教育委員会	教育長	加藤 正彦
委員	愛知県陶磁美術館長・陶磁史篇第八巻部会長	部会長	佐藤 一信
委員	愛知県立芸術大学美術学部	教授	長井 千春
委員	陶磁史篇七部会	部会長	仲野 泰裕
委員	せとモノがたりの会	会長	丹羽 蒼
委員	瀬戸市歴史民俗資料館	元館長	山川 一年

※五十音順

事務局 地域振興部文化課

第 1 回瀬戸市史編さん委員会第七巻部会開催結果

日 時	令和 6 年 3 月 2 5 日 (月) 午後 2 時から午後 3 時 1 3 分まで
場 所	瀬戸市文化センター 文化交流館 2 1 会議室
出席者	(瀬戸市史編さん委員) 仲野 泰裕部会長、他委員 2 名 (事務局) 瀬戸市美術館館長 服部、文化課 山内、 臨時職員 武藤

開 会

- ・委嘱状交付
- ・委員紹介・事務局挨拶

協 議

(1) 瀬戸市史陶磁史篇第七巻編さんについて

事務局より、別添資料に基づき説明

(質疑)

- ・徳川林政史研究所に所蔵されている「御小納戸日記」はどれぐらいのマイクロフィルムを見る必要があるか。
→享和・文化・文政ごろまでを見るとするとマイクロフィルムのコマ数で 1 万 7 千 4 8 コマ、冊数にして 6 9 冊。
→愛知県史の編さん時に徳川林政史研究所所蔵の尾張藩関係資料は撮影している。それらは愛知県公文書館で管理しているため、そちらで確認可能
- ・前回の瀬戸市史の際は悉皆調査を掲げたが充分ではなかった。今回の市史は陶磁史篇の古くなった部分を書き換えるということだが、それには新しい史料発掘が伴われるべき。新規の調査を行う目星はあるか
→前回の市史編さん時に調査を行った場所でも未調査史料が残っている。ただ、瀬戸村のものは少なく赤津村・品野村の史料が多い
→染付焼の発祥は赤津なのでそちらの歴史的経緯も整理する必要があると思う。染付焼開発の経緯が尾張藩としても周辺地域としてもどうだったのか知るために藩史料や地元の史料を見た方がいい。

→未調査史料及び新規調査可能な場所の確認、既調査史料の再確認、尾張藩側史料調査を絞ってやっていきたい

- 考古的観点は必要かどうか。
→伝世品と流通品は乖離があり、窯跡調査による編年と整合性が認められないこともある。
→考古学的な視点も必要であるので、委員とは別に専門知識を有した人物を委員に任命することも検討が必要
- 瀬戸染付の流れを追うならば流通まで見る必要がある。既調査史料の再確認を行いつつ、愛知県公文書館や名古屋市市政資料館での調査が必要では。
- 令和 11 年 10 月発刊となるとスケジュールはどのようになるか
→令和 11 年 10 月発刊となると 9 月には校了する必要がある。入稿は半年前。原稿提出は一年前がよい。調査は原稿締切まで行う。
→次回部会にてスケジュールの具体案を提出する

⇒協議事項(1)について、事務局が愛知県公文書館等の確認、未調査史料及び新規調査可能な場所の確認を行っていき委員に報告を行うこととする。また、次回の会議にて章立てを検討する。

(2) 部会長の任命

事務局より、仲野 泰裕委員を部会長に推薦し、承諾。

• その他

事務局より報償費及び旅費の支払について説明。

- 事務局が同行した方が都合がよいのでは。
→委員は調査に行く際に事前に事務局を連絡をいれてほしい。必要であれば随行する。

(閉会)

第 1 回瀬戸市史編さん委員会第八巻部会開催結果

日 時	令和 6 年 3 月 2 8 日 (木) 午前 1 0 時から午前 1 0 時 5 7 分
場 所	ZOOMを使用したオンライン開催
出席者	(瀬戸市史編さん委員) 佐藤一信部会長、他委員 2 名 (事務局) 瀬戸市美術館館長 服部、文化課 山内、臨時職員 武藤

開 会

- ・委員紹介・事務局挨拶

協 議

(1) 瀬戸市史陶磁史篇第八巻編さんについて

(質疑)

- ・陶磁史篇第八巻について、市史編さん委員会で分巻という議論もありましたが、どのような方向性で行くのかご意見をお願いします。
 - 近代・現代を一つの巻にするのは無理がある。近代と現代というように分けるのが妥当ではないか。
 - 明治時代は美術や文化的な部分と産業的な部分が大きく別れる時期なため、一冊では表面的になってしまう。分冊してもよいのでは。
 - どちらでもよいが、分けないとボリュームが増してしまうので分けた方がよいとも思う。
- ・どのような分野をターゲットにするべきか。
 - 日本陶磁史として見た時に、瀬戸が重要であることを押さえるべき。よって明治時代はまず輸出を第一とし、そこから工業と工芸、個人作家となるのではないか。
 - 近代以降の産業や工業に関わる陶磁器は瀬戸発信のイノベーションがある。瀬戸市史で現代を語るのであれば未来につながっている陶磁器ということも示す必要があるのでは。
 - 鉾山の歴史も含めて 100 年がたどれるとよいのでは。

- 含めないといけないことが多いため、近代で第八巻、現代で第九巻とするのがよいと思うがどうか。
 - 同意である。
 - 近代と現代で分冊することを市史編さん委員会へ提案したほうがよいと思う。
 - 分巻について、市史編さん委員会に提案することでよいか。
 - 賛成（全委員）
- 他の推薦者について、意見があればいただきたい。
（割愛）
- 今後資料調査は必要か。また必要ならばどのような調査か。
 - 近代に関しては今までの展覧会の開催時に調査を行っているので特に浮かばない。ノリタケの社史編さん室で瀬戸にかかわる部分が拾い出せるかは担当会議にかけてもよいかもしれない。土の話であれば工業試験所などに報告書があるのでは。
 - 定期的に定点観測しているので調査報告書は残っている。筑波の鉦物の方の管轄であるはずなので、そちらは調べた方がいいかもしれない。
 - 公刊本や当時の新聞もあるので、悉皆調査とはならないかもしれない。ピンポイントで調査をする感じになるだろう。
- 東海湖の話は市史にでているのか。
 - 自然編で出ているが、今の説とは異なる。
 - その改訂が必要
 - 陶磁史篇の近代でやるのか否かは鉦山業に関わるので必要だと思うが、今回はわかりやすい市史を目指しており、マニアックすぎることはならないようにしたい。どのように入れるかは今後の検討が必要。
- INAXの協力を仰ぐのはどうだろうか。
 - ボリュームや中身によってはこちらで書ける場合もあると思うので、どこまでやるかによる
- 瀬戸民芸館ができたので、瀬戸の民芸についてもどこかに記載があるとよい。

⇒夏頃に章立て等について検討する第2回を開催することを伝え協議終了。

(2) 部会長の任命について

事務局より、佐藤一信委員を推薦し、承諾。

・その他

事務局より報償費及び旅費の支払について説明。

(閉会)